

大学院看護学研究科		授業科目	小児看護学特講 Advanced Pediatric Nursing I			担当 教員	二宮啓子 (専任)
開講年次	1年次後期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目 実践看護学	授業形態	ゼミ
選択必修	選択	時間数	30時間			使用教室	
授業の目的及びねらい		<p>小児の健康生活にかかわる諸要因のうち、健康障害に関連するストレスに焦点をおき、小児のヘルスアセスメント、医療を受けるときのストレスを中心に、痛みへの対処、説明に対する理解など、小児特有の反応と親特有の反応を探求し、個々の発達段階と状況を考慮した小児看護を追究する。</p>					
授業のキーワード		小児、ストレス、コーピングスタイル、健康障害					
講義回数	授業内容及び計画						
第1回 ～ 第15回	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的なストレス・コーピング理論について、その背景、主要概念、および特徴を理解し、有効性と限界を検討する。 2. 小児のストレス反応・対処行動が個人・家族・社会へ及ぼす影響について検討する。 3. 小児のストレス反応および対処行動を観察する方法・測定する方法を学び、臨床場面におけるアセスメントへの活用を検討する。 4. ストレス・コーピング理論を用いて小児看護における実践事例を分析し、小児のストレス対処行動と看護援助との関連、あるいは看護上の課題を追求する。 5. ストレスの予防および緩和方法を学び、小児看護への適用を検討する。 						
テキスト	なし						
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 1) Hans Selye/杉靖三郎他訳：The stress of life, revised edition/現代社会のストレス（原書改訂版）。法政大学出版,1988. 2) Lazarus, R. S.&Folkman, S./本明寛他監訳：Stress, appraisal, and coping: ストレスの心理学。実務教育出版, 1991. 3) Lazarus, R. S. /本明寛監訳：ストレスと情動の心理学－ナラティブ研究の視点から－。実務教育出版, 2004. 4) アルバート・バンデュラ/本明寛・野口京子監訳：激動社会の自己効力。金子書房, 1997. その他、9文献は別に提示する。 						
成績評価の方法と基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. ストレス・コーピングに関する理論について、関心領域に従って分担し、報告する。 2. 各自が経験している小児のストレス場面を理論と関連づけ、報告し、討議する。 3. 小児看護の事例をストレス・コーピングの観点から分析し、ケアへの応用に関するレポートを提出する。 *プレゼンテーションの資料と発表、及び参加状況を60%、レポートを40%で評価する。 						
教員から学生へのメッセージ	<p>この授業は、本学大学院の小児看護学専攻と兵庫県立大学大学院の小児看護学専攻との合同授業になるため、小児看護学専攻の学生のみ受講となります。</p>						